

東日本大震災と福島第一原子力発電所

川端 内山 貢（東原出身）

三月十一日午後、大揺れの地震、しかも長くだんだん強くなるので、外へ飛び出した。道路の上を通る電線がまるで縄跳びの縄を何本も廻すように揺れていた。ここ埼玉県中部でも震度5の強さだった。テレビを見ると、宮城県東方沖を震源とする大地震だった。津波警報が出され六メートルを超え津波の襲来をテレビは告げていた。この時、震源域では、海底が百メートル近く東へ移動し二十メートル以上跳ね上がったと、その後の調査で判明した。その跳ね上がり高にほぼ等しい大津波が海岸地方を襲った事になる。惨憺たる情景のテレビ中継を心凍る思いで見た。この惨状を見て、わが家としては破格の額の義援金を市へ預託した。今ごろは誰かの手に渡り役に立っていることだろう。

スマトラ島沖地震やニュージーランド地震、南太平洋地震と地球的規模の地震が起こって不穏な感じがしていたが、まさか東北地方に大津波を伴う大地震が起これとは地震学者も思わなかったらしい。地震予知はなかなか難しい。地震予知連絡会も予知研究に限界を感じ、予知活動を停止するらしい。地震の為、地盤が一メートル近く沈下したところがあり、満潮時に住宅や道路が冠水する地域が生じた。こういう所の災害復旧として、将来の堤防の一部として利用できる鋼矢板を打つなどして海水の浸入を防ぐ対策を急がなければならぬ。脱官僚の政策をうたう政権下にあつては、国土交通省は、事前に災害復旧工事に着手するような無理なことを控えているのだろうか、マスコミの情報からは何らかの手が打たれている様子が見えてこない。もっとも災害対策補正予算が決まったのは五月に入ってからだ。一刻も早く施工してもらいたいと思っている。

世界的な規模で問題視されている原発事故の放射能汚染の問題は、非常時用の予備発電装置の津波による流出が主因である。設置場所が海側でなく建屋の陸側、即ち建屋の陰にあつたならば状況が変わっていたであろう。加えて電力供給線が引き込まれていればこんな状態にはならなかったであろう。自分で造った電気で施設を操作して十分だと考えていたのだろうか。それが止まった時、動力源を絶対必要とする特定重要施設・原発には少なくとも二系統の電力供給ができる施設が必要であった。被災してから動力線の引込み工事を行ったのを見てそのことを痛感した。

原子炉の冷却水注入ができなくなつて東電は何をしていたのだろうか。現地の社員は、直ぐに大変なことになると感じていたはずである。しかし、上層部の判断を仰がなければ行動できない仕組みがあり、上層部の的確な指示が出ないまま時間が過ぎたように見えるのは私だけだろうか。続いて一号館建屋の水素爆発、建物が密閉型で造られていたのが仇となったように思える。空気より軽いガスが建物内に溜まっていったのだから。

このことをテレビの映像で見たとき、チェルノブイリ事故と同じ原子炉爆発が起こったと思った。内閣官房長官の記者会見ではたいした事がないニュアンスで語っていたが、原子炉建屋内の配管類等が地震で壊れたか、爆発で壊れたか区別が付かなくなつてしまった。国会で東電副社長は、議員の執拗な質問に答え個人的には、この事故は人災だと思つて述べているのをテレビ中継で見た。

その後、放射能が拡散して、避難を余儀なくされた人たちは本当に気の毒だ。地域の人たちの苦労の程が思いやられる。一日も早く原子炉の安定化が進むことを念じている。

